



鴻巣市立吹上北中学校 学校だより

コスモス  
秋 桜

◎学校教育目標「 夢に向かって学び、鍛える 心豊かな生徒 」

— 夢・学・恕 —

ホームページ : <http://fukiagekita-j-konosu.edumap.jp> E-mail : [fukiagekita-j@city.konosu.ne.jp](mailto:fukiagekita-j@city.konosu.ne.jp)

<第3号>

令和8年6月1日

☎048-548-0081



## 「考え、議論する道徳」の展開～「しばてん」を読んで何を思う?～

校長 宮野和幸

太郎は泣かない赤ん坊だった。その太郎が、馬の「とめきち」を見たとき、ぎゃっと泣いた。太郎の尻っぺたには、おまけに、ひずめの形の、あざがあったので、

「こいつは、しばてんの生まれかわりや、ないやろか。」・・・誰かがこっそり、そう言った。

**太郎は、人間の子だから化け物の、しばてん（河童に似た妖怪）ではない。**

**しばてん（河童に似た妖怪）は、化け物だから、人間の子の太郎ではない。**

しばてんは、相撲が好きで、毎晩、村の道に現れては、「おんちゃん、すも、とろ。」と言って、百姓を投げ飛ばす。投げ飛ばされた者は、その明日から足腰が立たなくなって、ひと月も野良に出られない。

そこで、村中よりあって、「しばてんの、かまえちよりそんな夜道に、あばれ馬の「とめきち」を放してみるかよ。」と決めた。その夜も、しばてんは、土手の下に、しゃがんで、相撲の相手を待っていた。暗闇を飛んできたのが、「とめきち」だとは、気づくはずがない。「おんちゃん、すも、とろ。」と飛びかかっていったとたん・・・ **（馬の「とめきち」に 蹴られる。）**

しばてんは、遠く遠く、闇の彼方へ消えた。その後、夜道で、しばてんに出会った者はいない・・・。

村のはずれに、赤ん坊の太郎が捨ててあったのは、この出来事の、すぐ後の事である。

太郎は、村人達に育てられ、相撲ばかり強いガキ大将になった。ある年の秋祭り、勝ち抜き相撲の土俵へ、初めて太郎が上った。次々と村中の若い衆を投げ飛ばしてしまった。「太郎は、しばてんの生まれかわりじゃ。」ひそひそ声が 段々大きくなって、「皆で米つぶ出しお育てしてきたけど、こんな気味悪い化け物は、村にゃおけん。」と、きっぱりと長者様が言うと、皆、棒きれ持って、騒ぎだした。

**太郎は、村から追いたてられ、えぼし山に追い上げられてしまった。・・・**

月日は流れた。太郎は何とか生きていた。ある時、人間に会いたくなかった。今年は日照り続きだった。太郎が、こっそり山から下りてきてみると、田んぼは枯れ、村には食べ物がなかった。村人達は、木の実、草の根を奪いあって生きていた。ところがどうだ。長者様の屋敷を覗いてみれば、米も野菜も、ありあまる。しかし、長者様は、ひえ一粒もくれやしない。そこで、村中寄り合って、相談ぶって、「このままじゃと、年寄り、ガキらは死んでしまうぜよ。」「蔵を打ち壊そう。」とまとまった。だが、百姓達は蔵に行き着く前にへたばってしまった。すると突然、百姓の中から太郎が飛び出した。「しばてんが助けに来たぜよ。」と叫んで、太郎は、番人どもを投げ飛ばした。「しばてんが出たあ。」番人どもは、気味悪がって逃げ回る。百姓達は喜んで、「しばてんが 来たぞう。」と勇気づいた。だが、長者様だけは、「怖がるなちや。こいつは太郎じゃ。」と飛びかかってきた。太郎は長者様を空の彼方へ投げ飛ばした。

運び出した米俵は、みんなで分けあった。楽しい日々が、また村にかえってきた。太郎は、村人達に引き止められて、また村に住む事になった。

しばらくたって、役人が村へ来て、「長者の蔵の米俵を盗んだ奴は誰だ。」と呼ばわった。皆は、ふるえながら考えたのは、しばてんの事だ。あいつは化け物だから、やすやすと縄を抜かれるだろう。打ち首になっても、にいと笑って生き返るに違いない、と村人達は思った。**「しばてんです。」「しばてんが全部やりました。」**と、口々に答えた。

太郎は、役人に引き立てられて行って、そのまま帰って来なかった。秋祭りが来る度に村人達は、いなくなった太郎の事を思い出す。自分達の心に、いつからか住んでいる、しばてんの事を思いながら。

～作者 田島 征三 偕成社 創作えほん より～

上記は、私が初担任した時に取り上げた、絵本による題材です。現在、「道徳」は教科化され、学校では教科書を使用し、多面的な議論をとおして、「多様な価値観」や「幅広い道徳性の育成」を図っています。

参考に、今回紹介した題材について、自分の考えや思い等を、それぞれでどうぞ深めてみて下さい。